

# 内モンゴル自治区における乳産業の形成と発展に関する研究

シヨウ  
暁

ミン  
敏

愛知大学三遠南信地域連携センター ポスト・ドクター

## 緒 言

内モンゴル自治区は、現在では中国最大の牛乳・乳製品の産地となっている。その要因は、同地域にモンゴル民族の食文化と伝統的な畜産業が存在し、牛乳を中心とする独自の食文化が育まれてきたことが挙げられる。さらに、豊富な草地（牧草）と畜産資源も乳産業発展の基盤となった。

これらを基盤とし、中国政府は1950年代から国家的資金を投じ、内モンゴル自治区の乳産業を育成した。60年を経過した今、内モンゴル自治区は中国の乳産業を代表する「蒙牛」と「伊利」という二つの大規模な乳製品製造加工会社を有する乳産業の盛んな地域まで発展した。とりわけ、2000年からの発展が著しく中国の乳産業の基地ともなっている。

このような内モンゴル自治区の乳産業の発展を理解するために、歴史文脈においてその形成と発展などを把握することは必要不可欠である。近年、内モンゴル自治区の乳産業が注目を集め、中国国内外においていくつかの研究成果が蓄積されてきた。

これらの研究をみると、(1)内モンゴル自治区の乳産業の現状、(2)既述の「蒙牛」と「伊利」といった同地域あるいは中国の乳産業を代表する乳製品製造加工会社、(3)内モンゴル自治区の省都フフホト市周辺の乳産業に注目したものがほとんどである。これらの中で内モンゴル自治区の乳産業の形成と発展を系統立てて整理した専門的論述はほとんど見られない。

言うまでもなく、内モンゴル自治区の乳産業の発展は突然出現したのではなく、歴史的な道筋を通過して成立したものであり、現状分析をするうえでも、その形成と発展を理解することが不可欠の前提条件であると言える。

こうした研究背景を踏まえ、本研究の目的は、(1)内モンゴル自治区の乳産業の形成と発展を整理し、(2)その形成と発展の特徴を提示しながら、(3)最終的に同地域における乳産業の今後の方向性およびあり方につ

いて検討するものである。

## 結 果

前述したように、内モンゴル自治区の豊富な畜産資源などがその乳産業の基盤となり、1950年代から国による同地域の乳産業の育成が進められた。ここでは、その乳産業の歩みについて、日本国内外で入手した関連文献資料に基づいて整理しておきたい。なお紙幅の関係上、典拠を省略しているが、詳しくは文末に挙げた参考文献にて確認されたい。

まず、工場の設置および企業の動向については、1950年に内モンゴル自治区初の乳製品加工工場がハイラル市で成立したことを皮切りに、1951年にラブダリン乳製品工場、1952年にヤクシ（牙克石）市乳製品工場、1958年に通遼市乳製品工場、1965年にジャライノール乳製品工場、1968年にフフホト市乳製品工場、1983年にフフホト市回民乳食品加工工場、1984年にバウトウ市乳製品工場、1987年にフルンボイル盟シャルタラ牛乳ソフトパッキング工場などが相次いで新設された。1990年代に入ってから企業の動向としては、伊利と蒙牛の両社に注目する必要がある。伊利については、1993年にフフホト市経済体制改革委員会の認可のもと、フフホト市回民乳食品加工工場の株式会社化に伴い、「内蒙古伊利実業股份有限公司」が成立し、1996年に上海証券取引所での上場を果たした。一方の蒙牛は1999年1月に設立され、同年8月に蒙牛は株式会社化を実施し、2004年6月10日に「蒙牛乳業」の香港証券取引所での上場を実現した。

次に、乳牛飼育の面で1954年にフルンボイル盟では新たに六つの国营牧場が建設され、乳産業用の牛乳を提供するために乳牛を飼育し始めた。1957年に内モンゴル自治区政府は牧草飼料の栽培について、農業税の免除決定を公布し、飼料面で乳牛飼育を支援した。さらに、1977年に内モンゴル自治区食糧科学研究所による子牛

用膨化人工乳の開発が成功するなどにして、牛乳飼育の技術向上がはかられた。また、1959年から1986年までの間、内モンゴル自治区はソ連、フランス、デンマーク、オーストラリアなどから種牛を500頭余り導入し、乳牛改良に取り組んだ。

このように、第一次5ヵ年計画期間中（1953～1957年）に、内モンゴル自治区では合計33の様々な規模の乳製品加工工場が新設あるいは拡張され、1957年の粉乳生産量が1952年より54倍増加した。その後も、中国の乳製品の供給基地としての重要な役割を担い、1983年に上記のヤクシ、ジャライノール、ラブダリン、ハイラルなどの工場の乳製品が中国軽工業部の優質製品と認定されるなど、中国の乳産業の一角を担ってきた。

さらに、フフホト市に立地する伊利と蒙牛は、1997年の「全国栄養改善計画」および2000年の「学生牛乳飲用計画」の実施による牛乳需要の拡大を契機に、生産・販売を拡大し、中国を代表する乳製品メーカーまで成長した。

## 考 察

内モンゴル自治区の乳産業の歩みから見ると、1950年代においては内モンゴル自治区の乳産業は主に東北部に集中していた。1980年代になると中西部のフフホト市およびバウトウ市にいくつかの工場が設けられ、その中の伊利と蒙牛の急成長によって乳産業の中心がフフホト市周辺に集中するようになったことがわかる。

なお、1950年代における内モンゴル自治区の乳産業は主にその東北部に集中していた要因は、1920年代に東清鉄道の満州里―ハルピン間の沿線にロシア資本によっていくつかの乳製品加工工場が設置されたことに由来する。これらを基礎に、1950年代から内モンゴル自治区政府はこの地域を乳産業の基地として設定し、工場建設などが進められた。

上記を踏まえて、内モンゴル自治区を含む中国の乳産業の発展段階を大きく、「前史（伝統的なモンゴル人の食文化、家畜と牧草資源の存在）」、「形成期（1920年代～1960年代）」、「拡大・成長期（1960年代～1990年代半ば）」、「発展期（1990年後半～現在）」に分けることができる。

その各時期の特徴としては、1960年代まで東部を中心に乳産業が形成され、1980年代においてその中心が東部から西部へ拡大していった。1990年代に入ってから、伊利と蒙牛という二大メーカーがフフホト市に設

立され、その後この二大メーカーが内モンゴル自治区全体の乳産業を牽引するような役割を果たすことになったのである。

とりわけ、1990年代以降においては、前述したような「全国栄養改善計画」および「学生牛乳飲用計画」の実施が、内モンゴル自治区の乳産業の発展を大きく促進した。これ以外に、ほぼ同時期における中国の継続的な経済成長による所得上昇が牛乳消費を刺激し、道路などインフラの整備が牛乳の流通を促した。さらに、この時期に、中国における市場経済化が一層深化することになる。これを機に、前述のフフホト市に立地する大手二社は、株式会社化に伴って調達した資金を利用し、海外から最新の設備を導入し、生産効率、品質向上を実現した。実際には、現地の生産現場を見てみると、あらゆる作業工程においてドイツ、デンマーク、スウェーデン、日本などからの最新設備が整備されていることが確認できる。

また、内モンゴル自治区政府が推進する酪農・乳業推進政策は、乳製品加工製造だけではなく、酪農の参入をも増大させた。こうしたことと上記のような諸要素が相まって、内モンゴル自治区が中国の乳産業の最大の基地となったのである。

## 要 約

内モンゴル自治区の乳産業の形成は、同地域の豊富な畜産・牧草資源とモンゴル民族の伝統的な食文化が寄与していた。しかし、近年の内モンゴル自治区の乳産業は、主に中西部の農村地帯に集中し、従来の牧草の代わりに飼料の使用が顕著である。これにより内モンゴル自治区としての独自性を喪失し、他地域との差別化ができなくなっている。

なお、近年の中国の乳産業の急速な発展を見る限り、それは所得上昇に伴う牛乳需要の急拡大による発展である。乳産業の発展よりも牛乳産業の発展であったことが明確であり、その中で、長期保存が可能なロングライフ・ミルクが圧倒的な生産量を占めている。このように長期保存用牛乳の消費構造であったため、内モンゴル自治区から他地域への供給が可能だったのであるが、近年の牛乳の消費動向をみると生乳が好まれる傾向にある。

上述のように、今後内モンゴル自治区における乳産業の優位性が低下する可能性がある。こうした状況を打開するためには、いかにモンゴル民族の食文化に基づく乳製品の多様化をはかりながら、内モンゴル自治区の伝統

的な畜産・牧草資源および地域特性を利活用して、今後の持続的な発展につなげられるかが焦点となる。

## 謝 辞

本研究を執行するにあたり、公益財団法人三島海雲記念財団の学術研究奨励金を賜った。ここに記して心より深い謝意を表したい。

## 主要参考文献（年代順）

- 1) 南満州鉄道株式会社北満経済調査所：『北満の乳業』、1939年
- 2) 孫敬之主編：『内蒙古自治区経済地理』、科学出版社、1956年
- 3) 『内蒙古自治区成立十周年記念文集』、内蒙古人民出版社、1957年
- 4) 内蒙古社会科学院経済研究所：『内蒙古自治区経済概況』、1985年
- 5) 林蔚然主編：『内蒙古自治区経済発展史』、内蒙古人民出版社、1990年
- 6) 『内蒙古大辞典』編委会：『内蒙古大辞典』、内蒙古人民出版社、1991年
- 7) 内蒙古自治区档案馆編：『内蒙古自治区経済発展信息総匯』、遠方出版社、1994年
- 8) 『内蒙古自治区志』、内蒙古人民出版社、1997年
- 9) 譚向勇、曹暉：『中国乳業経済研究』、中国農業出版社、2007年
- 10) 張利庠他：『2009 中国乳業発展報告』、中国経済出版社、2010年
- 11) 独立行政法人農畜産業振興機構編：『中国の酪農と牛乳・乳製品市場』、農林統計出版、2010年
- 12) 『内蒙古日報』
- 13) 『中国乳業年鑑』（各年版）、中国農業出版社